

◆市長のお出かけトーク◆

・平成22年度第1回 古井地区多文化共生推進座談会

開催日・参加者	内容(参加者の主な発言)
<p>平成22年4月27日(火) 上古井公民館2階和室 約40名 参加</p> <p>・日本人と外国人市民が協働して暮らせる地域を育むために、日本人と外国人の文化の違いや、日本での生活について外国人が感じていることを率直に語っていただきました。</p>	 <p>【主な発言内容】</p> <ul style="list-style-type: none">○ 市が何を行うかを、外国人を含めた市民に早く正確に伝えてくださるのは大事だと思います。お出かけトークのような場を設けて、市長自らが発言することで、市政の重要性を感じることができます。○ 第5次総合計画の基本目標1「産業の振興により新たな価値のあるまちをつくります！」の政策3「駅南(前)などの市街地が、買い物がしやすく便利である」の中に書いてある美濃太田駅南の空き店舗について興味があります。私たち外国人にも空き店舗を利用させてもらえれば、私たちにとっては自分ができることから始められるし、地域にとっては活性化につながるのではないかと思います。○ 私は14年間愛知に住んでいました。その後美濃加茂に来た時に、外国人を受け入れる気持ちが強いと感じ、驚きました。しかし、もっとして欲しいことがあります。私は牧師として、市内には教会が20か所以上あるのですが、ブラジル人などの外国人の教会だと、宗教法人格をすぐ取りにくいです。教会では活動をたくさん行っているのでもっと見てほしいと思います。宗教法人格を取るために何をしたらいいのかを教えてください。○ 行政文書についてですが、中国語版がないのが残念です。漢字を頼りに読むのですが、意味が全く違うものもありますので、せめて概略版でもあればと思います。

- ブラジル人は、ひらがなカタカナなら読める人が多いです。振り仮名をつけていただくと読みやすくなると思います。
- 日本人と外国人の習慣の違いは、言ってくれないと分かりません。中国では、通常使うボールペンは青色です。日本は黒色です。自分の中では青色が常識なので、子どもの書類を書くときに青色を使ったら、主人に色々言われました。
- 娘が通っていた学校の話です。当時の私は失業中でしたので、学校に奨学金制度がないかなどの相談に行きました。私たち外国人にはそういった情報があまり届きません。学校からの返事は、そのような制度はないとか、助けになれないというようなことでした。自分は娘を通わせ続けられるかどうかとても心配でした。しかし、友人などからそういうことができるという話を聞き、再び学校に相談に行ったら、結局できました。外国人を受け入れない姿勢の人がいたので、このような事態が起こったのだと思います。今の話は一例ですが、そのような人たちがいると、私たち外国人には困難が増えるのではないかと思います。
- ブラジルでは、勤め始めて、初めて年金保険料を支払います。日本では20歳になると支払うことになっていますよね。私はそれを知りませんでした。他の方から、子どもが働いていなくても年金保険料を支払っているという話を聞いて、あわてて娘の年金保険料の支払い手続きをしたのですが、少し遅れてしまいました。年金保険料を支払わない国民も増えているので、外国人にも情報を伝えてほしいと思います。年金制度を続けていくためにも、私たちの将来のためにもそういった情報を伝えることは必要だと思います。
- ブラジル人は、3年程度の短期間の滞在のつもりで日本に入国し、結果的に長期間になる場合が多いです。年金の話ですが、保険料を過去にさかのぼって支払うことができないので、さかのぼって支払える方法があればいいなと思います。
- 今までの児童手当、今でいう子ども手当についてですが、年齢制限があり、子ども手当を受けられるのは中学生までとなっています。しかし、学費などの養育費が多くかかるのはその後です。この話は国レベルの話であり、市レベルではないと分かっていますので、市から国へ何とか伝えてもらえればと思います。
- 美濃加茂ブランドのことですが、美濃加茂市で採れる食材を使って新しいブランドを作ってほしいということをもっと発信していけばいいと思います。今度、「かも1グランプリ」という、可茂地域の各町村からエントリーされた地元食材を活かしたご当地グルメのナンバーワンを決めるB級グルメのイベントがあります。美濃加茂市でも独自に、「市長が選ぶ、地元の食材を使った外国料理認定大会」のようなイベントを開催し

てもいいかなと思います。

- 市北部から市街地への交通の便ですが、車を持っていない人は不便です。車がない人は車を持っている人に頼んで乗せてもらうこともあります。市のバスの存在を知っている人は少ないと思います。しかも、市のバスは時間がかかります。
- 私は古井地区に住んでいて、自転車で古井地区内にある各学校へ行ってました。坂道があるとつらかったですが、交通の便は割といいほうです。
- 日本語をうまく話せないのが、一部の日本人とは交流はありますが、住んでいる場所が離れている人とは、なかなか交流ができません。日本語の分かる外国人が近くに居れば、一緒に自治会へ入りやすいです。積極的に誘ってくれる人がいると助かります。
- 先日、中国で大きな地震がありました。すごく不安でした。東海地方にも大きな地震が起こると言われていて、とても不安です。私たち中国人は防災訓練に参加したことがないので、私たちも参加したいです。
- 私は美濃川合駅の近くに住んでいます。自警団という自主防災組織の一員として活動しています。当初は防火と消火に関わる事が多かったのですが、最近では、防犯にまで力を入れています。年に1回、地域で防災訓練を実施しており、消火訓練、救急救命、炊き出し訓練などを行っています。
昨年、ブラジルの方にも参加いただき、ブラジル料理を振舞っていただいていた大変好評でした。
今年も、秋頃に計画しておりますので、是非ブラジルの方も中国の方も皆さんで参加してください。
- 道路標識の意味を読み取ることができません。一定時間通行禁止である区間が分からなくて、通ったら警察に捕まってしまいました。ポルトガル語を使ってブラジル人にも分かりやすく表記していただけるとありがたいです。
- 今、森山団地の一番高い所に住んでいるのですが、3丁目のあたりに、見通しが悪く場所があります。4歳の子どもがいるのでとても不安です。裏に階段を作ってもらえとお年寄りや子どもに優しく安全だと思いません。歩道や階段の整備をしていただきたいです。
- 古井小学校の体育館を改造して「のぞみ教室」を作っていただきましたが、夏は暑く、冬は寒いので大変です。校舎に教室の空きが無いようですが、1つくらい教室を空けて、そちらで行うことも検討されたほうがいいと思います。
- 子ども手当についてですが、ブラジルや中国に子どもを残して日本へ来ている親もたくさんいます。ブラジルですと、帰国するのに長時間かかる

のであまり帰国はしないと思いますが、中国は2時間ほどしかかからないので、扶養費や養育費などはたいてい自分で持って帰ります。美濃加茂市で、今の子ども手当は、送金の必要性が証明できる書類を提出しなければいけません。中国の銀行に振り込むと、1回につき7,000円ほど手数料がかかります。養育費を持ち帰る証明ができれば手当をいただけるところもあるようですが、美濃加茂市は手続きが厳しいです。

- （「外国人は、見知らぬ人同士はあいさつをしないのが常識ですか」という質問に対して）日本と同じで、都会だとお互いに冷たいし、田舎だとすれ違う人にあいさつぐらいはすると思います。私は美濃加茂ですれ違う人にあいさつするようにしています。ブラジルも一緒に、都会だと近所の人も知らないし、顔合わせることも少ないです。
- 私は見守り隊の一員で、朝、通学する子どもにあいさつをするのですが、特にブラジルの子は自分たちの話に夢中であいさつを返してくれません。こちらから名前を聞いたり、話しかけたりしています。
- 中国では、知らない人に話しかけられても、絶対に返事してはいけないと小さい頃から教えられます。もしかしたら相手が不審者で、危険なことが起こるかもしれないからです。礼儀の話ではなく、文化の違いだと思います。
- 今日のお出かけトークでは、外国人の思いや意見や要望などの話が出ましたが、日本人が外国人に望むことは何ですか。市長は外国人にどのようなしてほしいですか。

【市長の発言】

- 駅南の店舗利用については、いろんな形で応援できると思います。計画を立ててみてください。
- 美濃加茂市では、外国人向けDVDの中で、年金制度の説明をしています。
- 市のレベルでは、年金の話は何とも言えません。今の話も含めて、外国人に対する政策を国に打ち出してもらい、解決の道を見つけていかなければいけません。
- このあたりの人は、あい愛バスをあまり利用していないようですが、お年寄りや北部に住んでいる人たちはよく利用しています。市内に公平にバスを走らせていますので、各地の本数が減ることになりますが、どうしたらよいかは今後考えていく課題であります。
- 第5次総合計画では、各地区のまちづくりキャッチフレーズも掲げられていて、古井地区は「あいさつから始めよう！古井ニケーション」となっています。これが10年間の目標になっています。

年金などの話は、皆さんが美濃加茂市に住み始める際に、市役所が正確な情報を出す必要があります。ただ、皆さんにも協力していただきお互いに助け合っていくことが大切だと思います。先日、美濃太田駅南側ロータリーで遊んでいる外国人の子どもたちが、自転車で急に道に飛び出てくるので危ないと、市民の方からご意見いただきました。そこで、子どもたちに、駅北側の公園の広場で遊ぶように話をしました。子どもたちは話を理解して、今はほとんど南側では遊ばないようになったようです。

一方的に日本人から要望するとか、市役所が言うとかではなく、一人ひとりとのコミュニケーションをとっていき、お互いに分かり合えるような関係づくりが大切だと思います。

例えば、第5次総合計画の中では、「国籍や文化の違いに関係なく、共に暮らせるまちをつくる」という政策があります。日本語で自分の意見を話せる外国人が増えていたり、外国人世帯の自治会加入率が上がったりということを、数値でしっかりチェックをしながら進めていくことになっています。これには皆さんのご協力をいただきながら行っていきます。